

ORD講演会レポート	1~2
ORD全体事業「見学会」レポート	3
製品開発委員会第2回例会レポート	4~5
技術促進委員会「一泊研修」レポート	6~7
技術促進委員会「研修」レポート	7~8
事務局だより	8

編集：企画広報部会 事務局：〒538-0044 大阪市鶴見区放出東1丁目10番25号(奥野製薬工業(株)内)
TEL 06-6961-7866 FAX 06-6961-7878 E-mail info@ord.gr.jp URL <http://www.ord.gr.jp>

ORD講演会レポート

人材育成のための「叱る」「謝る」「褒める」講演シリーズ 第2回「謝る」

- 日 時：2018年9月19日(水) 開場：午後2:30、講演：3:00~4:30
- 場 所：奥野製薬工業(株) 本社会議室 4F 大阪市中央区道修町 4-7-10
- 講 演：『企業の危機管理と良い謝罪』
- 講 師：『謝罪マスター』竹中 巧
- 懇親会々場：上海楼・横堀店 大阪市中央区道修町 4-5-15、時間：5:00~7:30

はじめに

ORD企画広報部会は人材育成に活かせる3連続シリーズ講演会の企画を進めています。

主題はそれぞれ「叱る」「謝る」「褒める」です。講師には最先端で活躍している先生方をお願いしています。今回はシリーズの第二回で、タイトルは「謝る」。講師には、現在、コミュニケーションの専門家、広報マスター、謝罪マスター、危機管理コンサルタントとして活躍しておられる“竹中 功”先生にお願いしました。



先生は同志社大学院総合政策科学研究科修士課程修了。1981年、吉本興業に入社。宣伝広報室を設立し、『マンスリーよしもと』初代編集長。プロデューサーとして、なんばグランド花月、渋谷よしもとホールなどの開場に携わり、よしもとクリエイティブ・エージェンシー専務取締役、よしもとアドミニストレーション代表取締役などを経て、2015年7月に退社されました。



謝る講演会

プロジェクターを使って約1時間30分「謝る」について、経験に基づいた話をうかがいました。とてもこの誌面では伝えきれませんが、ごくエッセンスのみをお伝えします。主題は謝るで、具体的な方法や心得の説明があり、また、しっかりと謝罪の気持ちを伝えるための「日常における基礎的な心得」もうかがいました。やることは山ほどあるが、平時からの「危機管理」が必要と強調され、リスクマネジメントを軽んじると、会社や団体だけでなく、家庭においても「破綻」が起こる。謝罪する時の心得には、下記に示す「謝罪する時の心得、四箇条」がある。大切なことは、直接謝罪に行くことで、謝罪は早ければ早いほど良い。できない約束はしない、現地には1時間前に着いておくなど、厳しい指摘がありました。

怒っている先方は相手を印象で決めるので、身だしなみと態度が重要である。ではどれぐらいの時間で、相手の印象を見極めるといいますか？ なんと！ たった1秒で感じてしまうそうです。しかし上手いコミュニケーションが取れば、それを解決してくれます。

被害者のイカリ(怒り)が、逆さまのリカイ(理解)に反転してくる時は必ず訪れます。大切なことは直接の被害者に、直接謝罪を行うことです。

謝るは思っていた以上に奥が深い。とてもこのニュースでは伝えきれないので、最後に先生の著書を紹介します。ご参考願いたい。

『よい謝罪』 日経BP社出版、\1,400円。



懇親会

講演会後の懇親会には竹中先生にご参加頂きました。そこでも熱心なメンバーと先生の間で質疑応答が続き、お酒が入っているので、忌憚なく話し合えました、ハッピーハッピー。

菊池 清(記)／セン特殊光源



ORD全体事業「見学会」レポート

●日時：2018年12月18日(火)

●場所：大阪産業技術研究所 和泉センター



大阪産業技術研究所 和泉センター正面玄関

平成30年12月18日 ORD全体事業として、大阪産業技術研究所 和泉センターにて、平成30年4月に完成した電波暗室の見学会を行いました。

まず、基本的な電磁ノイズや、電磁妨害の影響等による現在の利便性向上と表裏一体となった問題点や危険性の講義の後、電波暗室の見学を行いました。



研修風景

まず、電磁ノイズの危険性として、300～2000ヘルツの対策が必要である事。EMI(電磁妨害)を防ぐノイズの遮蔽用素材は、銅・鉄・アルミが使われ、放熱用の加工方法の工夫等の説明を受けました。

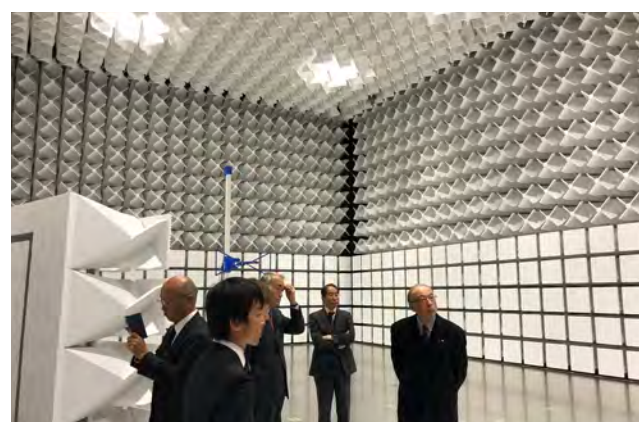
その後、大阪府が、7億5千万円を投じて近畿以



電波暗室正面にて

西の公設試験研究機関では、初の国際規格試 ISO/IEC17025 験所認定の性能を有する車1台丸ごと測定できる大きさのEMC試験施設(※)で、自動車の自動運転や、医療機器等の開発に欠かせない試験施設を見学。

続いて、高速衝撃試験機、3Dプリンター、5軸加工機、人口気象室、ものづくり試作支援工房の見学を行い、大阪の「ものづくり」を支える支援機関としての大阪産業技術総合研究所センターの利用



電波暗室内部

方法等の説明を受けました。

当日は、急に寒くなり体調を崩され欠席された方もおられましたが、素晴らしい施設の見学ができました。

また、当日大阪産業技術研究所和泉センターの各施設のご案内を頂きました、同センターの森田



電波暗室内部

様にも、後の懇親会にも参加いただき、色々なお話を聞かせて頂きました。

※EMC試験施設とは…電気機器などが機器内部及び外部からの妨害電磁波に対してその機能・動作が阻害されないかを測定する耐性試験の事。

松浦 勲(記)

製品開発委員会第2回例会レーポート 定例会議と講演会

- 日 時：2018（平成30）年7月18日(水) 開場：午後2:30、講演：3:00～4:30
- 会 場：ユニケミカル（株）、2F：203号室 通称・製品開発委員会々議室
大阪市淀川区西中島6-2-3 新大阪第7地産ビル
- 講 演：『最近の我が国企業の海外直接投資の動向とJBICの海外事業展開支援について』
- 講 師：石川 輝様／（株）国際協力銀行、産業ファイナンス部・西日本オフィス次長
- 懇親会々場：銀平グランフロント店／大阪北区ノースフロント

はじめに

第二回例会は例年、9月に行われる『日帰り研修』訪問先の選定が主題ですが、初年度例会で藤川委員長が今年の重点方針として、昨年度以上に企業経営に役立つ『講演』『懇話』および『実務セミナー』の開催に注力したい旨の抱負を述べられたので、本第二回例会では早速、外部から講師を招きセミナーも催しました。



セミナー講師の国際協力銀行・石川 輝西日本オフィス次長。

定例会議

始めにメンバーによる会議が定刻に始まりましたが、藤川委員長は急な社用で中国へ出張することになり、例会への欠席の連絡が入りました。臨時に佐藤事務局長が議長を務め、9月に予定される第三回例会の日帰り訪問先を検討し、候補先として8カ所が挙がりましたが、その中から「不二製油（株）阪南事業所（泉佐野市）」が有力候補に選ばれました。

＜日帰り研修後日談＞

日帰り研修について、藤川委員長と不二製油が協議して、不二製油（株）阪南事業所の訪問日は9月12日と決まりました。

皆さんの記憶にまだ生々しく残っているでしょうが、久しぶりに近畿地方に大災害を残していった台風21号（アジア名：チャーミー）が襲ってきたのは2018年



9月4日です。不二製油、阪南事業所は関西国際空港の対岸の泉佐野市にあります。猛台風なので阪南事業所が無事で済む訳がありません。当然、9月12日予定の日帰り訪問は吹き飛んでしまいました。何がチャーミーでしょうか。関西空港も大変な被害を受けましたが、大阪国際空港の横にある我社も一週間近く停電になりました。仕事にITに過剰依存する現在、停電で全く手も足も出なくなる貴重な経験をさせられました。



セミナー

セミナーの主題は、少し長いのですが以下の通りです。

『最近の我が国企業の海外直接投資の動向とJBICの海外事業展開支援について』

<銀行の概要>

名称：(株) 国際協力銀行

英文社名：Japan Bank for International Cooperation: JBIC

所在地：本店) 東京都千代田区大手町 1-4-1

西日本オフィス) 大阪市北区曽根崎 2-3-5

出融資残高：13兆9,194億円(2018/3月末)

JBIC の対中小企業ミッション

JBIC のミッションの一つは日本の産業の国際競争力の維持及び向上なので、対象になる企業は大手企業が主ではないかと思われるが、中小企業の支援も大きなミッションです。

従来、我が国の中小企業は、日系大手企業に追隨して海外に進出するケースが多かったが、その後、中小企業の進出動機・業種・規模・進出先は変化しています。80年代以降黒字を続けてきた我が国の貿易収支は、2011年から赤字に転じた後もその傾向が続いています。他方で、海外からの配当金や利子等からなる国の所得収支は結果的に日本の黒字になっています。今や日本は海外のアガリで支えられています。しかしながら景気低迷、人口減、労働生産性の伸び悩み等、市場規模拡大が期待できない日本国内より、海外で工場を建設したり、収益機会を求める必要があることを物語っています。



日本経済力の凋落

しかも、2000年～2018年の主要10カ国のGDP規模の推移をグラフで見ると、2000年には米国1位、日本2位、ドイツ3位で中国は8位程度だったが、2005年には中国はフランスを抜いて5位に上がり、2009年には日本も抜いて2位に上がりました。その後中国と日本の差は広がるばかりで、日本はGDP世界第三位の経済大国と云うには恥ずかしい数字です。

世界の輸出に占める主要国(日本、米国、中国、ドイツ、韓国)のシェアをグラフで見ると、2000年には日本は米国とドイツに次ぐ世界3位の輸出大国でした。中国は韓国より少し上の4位であったが2007年には中国は米国を追い抜き、2009年にはドイツも抜いて世界1位に躍り出ました。言い忘れたが日本は2004年に中国に追抜かれ、2014年には韓国と並ぶところまで落ちています。セミナーの核心の「国際競争力の強化と海外投資」は、切なる中小企業への期待なのです。石川次長が配布した資料には、とてもレポートには書き切れない貴重なデータが満載されており、大変刺激を受けました。

懇親会

例会終了後は、地下鉄で大阪駅へ移動して、大阪北区ノースフロントにある「銀平グランフロント」で懇親会を開き、講師の石川先生にもご参加頂きました。

菊池 清(記)／セン特殊光源

技術促進委員会「一泊研修」レポート

●日時：2018年11月16日(金)～17日(土)

●場所：日本板硝子株式会社、赤れんが博物館、舞鶴引揚記念館、北吸棧橋、海軍記念館、等



日本板硝子 玄関

今年の一泊研修は、秋空の中、総勢13名にて大阪駅前よりバスにて出発し、初日に日本板硝子株式会社 舞鶴事業所様にてガラスの基本製造工程について勉強させていただきました。続いて、赤れんが博物館および舞鶴引揚記念館を見学いたしました。その後、天橋立温泉まで戻り宿泊、2日目に海上自衛隊北吸棧橋にて停泊中の艦艇および海軍記念館を見学し、舞鶴航空基地に立ち寄った後、帰阪いたしました。

日本板硝子株式会社様といえば、ご高承のとおり国内ガラスメーカーの最大手であります。舞鶴工場は其中でも素材から合わせ／強化までの一貫工程が行う事が出来る国内最大の工場です。1952年に操業を開始し、面積66万平方メートル、従業員650名で、製造品目は自動車用、建築用、その他（高付加価値品）となっております。基本となるフロート板ガラスを製造し、その後の処理で、強化ガラス、合わせガラスを製造いたします。フロート板ガラスは原料を溶解炉内に投入し、1500～1600度にて熔融されガラス化されたもの（ガラス素地）が溶解炉から一定量で出され、フロートバスおよび除冷窯を通り完全に平らなガラスになります。強化ガラスは、再度加熱し急激に除冷することにより内部応力を発生させ表面を強化することです。合わせガラスは、2枚のガラスの間に透明の中間膜



日本板硝子 研修風景

を挟み高温高圧にて処理します。どちらにしても理論だけでなく経験則も必要なノウハウが必要と強く感じました。ガラスの製造は用途にかかわらず非常に大きな設備が必要で、一度設備を導入するとメンテナンスをしながら10年以上使われるそうです。

東舞鶴は明治時期に軍港として栄えた町で、今回の研修は、基本的にそれらの史跡等をまわる研修となりました。赤れんが博物館は元々旧日本海軍の施設であった赤れんが施設群を観光名所としたものです。ここでは、主に煉瓦の歴史と国内への導入について展示してありました。舞鶴引揚記念



舞鶴赤レンガ

館は第二次世界大戦後、主にシベリアに抑留されていた人々の引上港として舞鶴港が主要な役割を果たしたことから当時の様子について展示してあります。シベリア抑留者の生活や日本にいる家族との手紙のやり取り等が紹介されております。

2日目は、午前10時の開門と同時に海上自衛隊北吸棧橋を散策しました。空模様はあいにくの小雨でしたが、停泊中の艦艇が4艦もあり幸運でした。



北吸棧橋



海軍記念館

(土日には開放されていますが、日によっては全く停泊していないときもある。) 今回、見る事の出来た艦艇は、せんだい、みょうこう、あたご、ひゅうが、と舞鶴在籍の主要艦艇を見る事ができました。また、近くにある海軍記念館も見学しました。

昼食後、海上自衛隊舞鶴航空基地にて救護活動等で活躍しております SH-60J 型ヘリコプタを見学しました。北吸栈橋にしてもそうですが、自衛隊は色々な基地にて広報活動を熱心に行われ国民の



舞鶴航空基地

理解を得ようとされていることを改めて認識いたしました。

最後に、お忙しい中、ご対応していただきました日本板硝子株式会社 野邊様、矢田様、池内様をはじめ、ご対応していただきました皆々様に感謝いたしますと共に、ますますのご発展とご多幸をお祈り申し上げます。

伊場田晶 (記) / 旭テック

技術促進委員会「研修」レポート

●日時：2018年12月4日(金)～17日(火)

●場所：京都文化博物館、島津製作所創業記念資料館、忘年会



京都文化博物館



により設計され竣工しました。ですから、館内に入場した途端、京都の伝統産業（というには新しいですが・・・）を観た思いがしました。1時間あまり見学時間を取っていたのですが、改めて①

今年最後の例会は、寒空の中、総勢 10 名にて京都市内にて見学会を行い、忘年会にて締めくくりました。

今年度の技術促進委員会のテーマである「京都伝統産業と先端技術」の締めくくりとして、京都文化博物館、島津製作所創業記念資料館を見学してまいりました。京都文化博物館は見学された方も多いと思いますが、元々京都文化博物館のチケット売り場のある別館からして、重要文化財である旧日本銀行京都支店であり、明治 39 年に辰野金吾

京の歴史、②京の祭り、③京の至宝と文化、の展示物等を丁寧に見ていますと、時間が足りないくらいでした。また知らなかったのですが、3F のフィルムシアターにて京都府が所蔵する古典・名画を企画上映しており、当日は「金色夜叉」を上映しておりました。ちなみに無声映画で字幕が出てくるものでした。

次に小雨の中を 15 分ほど歩き、島津製作所創業記念資料館に向かいました。ここも見学された方も多いと思いますが、元々明治 8 年から大正 8 年まで旧島津製作所の本社兼住居であったところでは



島津製作所創業記念資料館

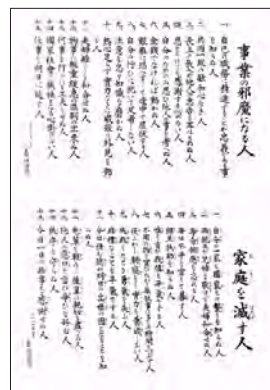
ここも平成11年に登録有形文化財に指定されています。資料館の方に1Fから順に案内していただきました。島津製作所というと、レントゲン撮影機等の医療機器と分析機等の産業機器が有名ですが、元々は学校に納める実験機器等の理化学機器が発祥のようです。その際、現在の京都大学とお付き合いが始まり、医療機器、産業機器に広がっていったようです。明治の初期に科学立国の信念を持ち、理化学の認知から始められた創業者である島津源蔵の想いにはただただ感心するばかりでした。最後に1階に飾ってある島津源蔵「事業の邪魔になる人15条」「家庭を減らす人15条」を確認し見学を終わりました。

無事見学が終わり、徒歩にて移動し、京阪三条駅周辺にて忘年会を執り行いました。今年一年を無事終えることができ、改めて皆様のご協力に感謝いたします。

最後に、お忙しい中、ご案内していただきました島津製作所創業記念資料館のスタッフの皆様にご感謝いたしますと共に、ますますのご発展とご多幸をお祈り申し上げます。

最後に、お忙しい中、ご案内していただきました島津製作所創業記念資料館のスタッフの皆様にご感謝いたしますと共に、ますますのご発展とご多幸をお祈り申し上げます。

伊場田晶（記）／旭テック



事務局よりお知らせ

2018年10月17日、18日両日にマイドームおおさかにて恒例の府下商工会議所主催の大阪勤業展が開催されました。

ORDからは、セン特殊光源(株)様と(株)フジキン様が出展されていました。

事務局（記）



平成31年度ORD総会のご案内

開催日時 2019年6月25日（火） 13：30～16：30

開催場所 ビジネスプラザおおさか（りそな銀行本店北隣）

基調講演 講師：国際問題アナリスト 藤井巖喜先生

今後の日本経済に影響を及ぼす世界情勢についてお話をいただく予定です。